

北の子

浜岡北小学校だより 令和2年度7月号

＜学校教育目標＞

「たくましさ」と「思いやり」で未来をつくる子

＜重点目標＞

進んで関わり 認め合う子

第1ステージの振り返り

7月3日（金）で第1ステージ「発見・協力」が終了しました。めざす子どもの姿は、「互いのよさを見つけて認め合い、協力を生かす子」でした。「発見」という言葉を入れた理由として、5月25日（月）のステージ式で以下のように話しました。

何年も前から知っている仲間でも、気付かないよさがたくさんあります。でも、見方や考え方を変えたり、小さな頑張りや伸びを見つけようとしたりすれば、発見できるのです。ですから、そういう努力をしてほしくて、「発見」という言葉を入れました。

新型コロナウイルスの影響で、遠足、運動会、縦割り遊びのような多くの子どもたちが主体的に取り組み協力するために効果的な行事や活動がほとんど中止となってしまいました。それだけに、「**日常の学校生活での発見**」という意識がより重要な第1ステージでした。そういった中、子どもたちは、多くの発見をすることができました。その一助となった手立てが週末の家庭学習になっている「**いいこと日記**」です。毎週、1週間を振り返って見つけた自分や友達のよさを日記にまとめ、それを教室に掲示しています。つぎの文章は、4年生の日記です。

- Aさん 掃除のとき私がやっていて、あと2分か1分しかないのに、Bさんは自分の掃除が終わったら第1音楽室に来て一緒に掃除をしてくれて、嬉しかったです。
- Cさん 掃除で2年生が一人で机を運べないときに、Dさんが進んで手伝っていたので、私も恥ずかしながらに手伝ってあげたいです。



AさんとCさんは、友達のさりげない優しさを発見することができました。そして、Cさんは、友達から得た学びを今後の自分に生かそう（手伝い＝協力）としています。また、Aさんは、Bさんに感謝の気持ちを伝えたのではないかと思います。このような発見が他学年でも多く書かれていました。まさしく**重点目標の『進んで関わり 認め合う子』**や学校教育『**「たくましさ」と「思いやり」で未来をつくる子**』の中の「思いやり」が育った第1ステージでした。一方で、子ども同士の関わりが多くなれば相手の心を傷つける場面が発生する場合もあります。今後も思いやり指導を大切にするとともに、いじめにつながるような行為に対しては、早期発見・早期対応に努めてまいります。

第2ステージの充実に向けて

7月6日（月）から10月2日（金）までの約3ヶ月間は、第2ステージ「**挑戦**」です。めざす子どもの姿は、「**関わりを通じた他者からの学びや自分のよさを生かして、集団や個で積極的に挑戦する**」です。つまり、第1ステージで学んだことを大切にしながらそれを挑戦に生かしていくので、学校教育目標の中の「**たくましさ**」の育成が重要になります。これは、**本校の最も大きな課題**の一つですが、4年生のEさんの「いいこと日記」からこういった力がすでに伸びてきていることを感じ、嬉しく思います。

- Eさん 僕がいいと思ったのは、6月23日の4時間目のときに、みんな頑張って要約していたことです。理由は、みんな難しそうにしていたけど、一人もあきらめなかったからです。僕は途中で書けなくなってちょっとあきらめそうになっていたけど、みんなあきらめようとしていなかったからすごいと思いました。



挑戦し続けるために大切な「**個の強さとしなやかさの育成（たくましさ）**」「**支え合う集団の基盤である支持的風土の醸成（思いやり）**」に取り組んでいきます。それが、学校教育目標の中の「**未来をつくる子**」にもつながると考えます。

（校長 北原 弘明）